【月曜朝会の話６月①H260602】

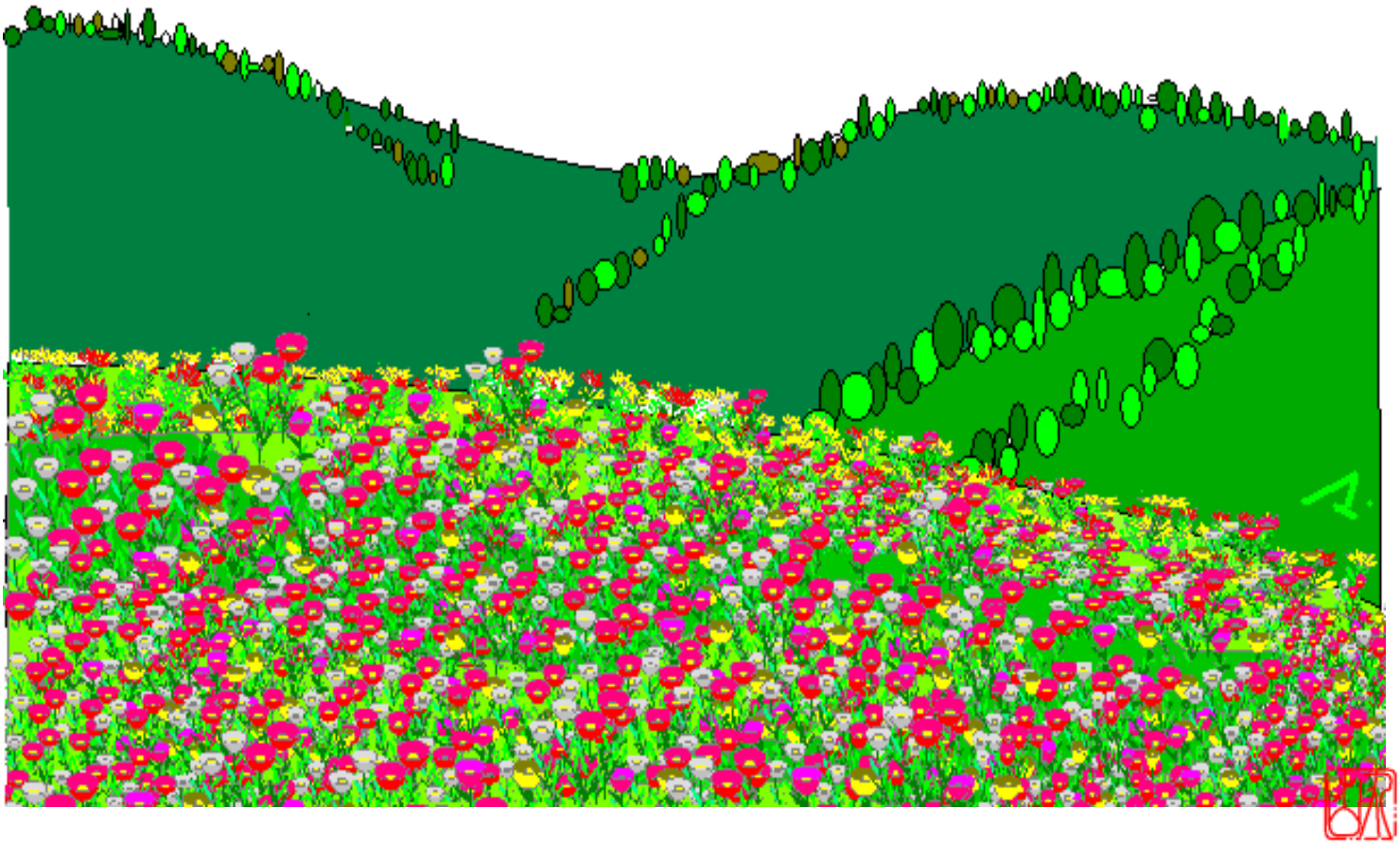
『花咲き山に　花が咲いたね・・・。』

「お早うございます。」（お早うございまぁす。）
　今日は「花咲き山に、花がさいたね・・・。」という話をします。
　花咲き山というお話、知っている人もたくさんいると思います。図書室にこのお話の絵本があるし、道徳の授業で読んだ人もいるかもしれません。
　こんな話です。

『　昔々の、山の村の貧しい家の女の子が、山道に迷い、ふだんめったに人が行くことのないずっと山奥の、不思議な花がたくさんさいているお花畑に迷い込んでしまいます。そこには今にも咲きそうなとてもきれいな花のつぼみがありました。
　そこに近寄ると、不思議なおばあさんがいて、
「その花はおまえがほしかった晴れ着を妹にゆずって自分はいらないとお母さんに言ったときの我慢の涙が、今さかせる花だ・・・・・。」
　そう、ここにある花はみんな、誰かが妹や弟や、だれかほかの人のために我慢して、人のことを思いやって涙を流したときに咲いた「やさしい心」の花のお花畠なのです。
　ここにある花の数だけ、誰かが誰かを思いやって涙を流したのです。　』

　さて、ある学校の先生が３年生の時にこのお話を道徳の授業でしたそうです。そしてこのクラスの子たちが４年生になった５月のことです。
　初めて委員会活動が始まり、どの委員会の委員になるかを学級会で決めました。そのとき、放送委員会に希望する人が多くて、一人の子がそこに入れずにすっかり元気をなくしてしまいました。
　すると、その様子を見ていた仲よしの女の子が「いいよいいよ、私が放送委員会から他の委員会に移るから、あなたが放送委員になっていいよ。」と、ゆずってくれたそうです。そして、子のゆずってあげた子は飼育・生き物委員会の委員になったそうです。
　その日の夜のこと、この子は夕食の時に悲しくて悲しくて泣いていたそうです。なぜかというと､ゆずってあげたのはいいのだけれども､この子は虫が大の苦手なのだそうです。
　それで､「ああああん、一年間イモムシやいろんな虫や生き物の世話するのはいやだよ、ええん・・・・。」と、悲しくて悲しくて泣いていたのでそうです。
　この話を聞いていた弟君が「でも、お姉ちゃん、おかげできっと花咲き山にお姉ちゃんの花がさいているよ・・・。」
　すると、お父さんも「そうそう、おまえが友だちのために流した涙で今頃、とてもきれいな不思議な花が花咲き山に咲いているだろうね・・・。」
　そのとたんに、女の子はぴたりと泣きやんでお母さんのお手伝いを始めたそうです。
　食事の用意をしているお母さんは笑顔で女の子の方を見ていました。そしてこのことをそっと、花咲き山の授業をした担任の先生に教えてくれたそうです。

　誰かさんのためにちょっとの我慢をして助けてあげようとする気持ちすてきだね。
　ところが、最近学校の中を見てまわっていると、いろいろな出来事を目にします。給食の時間にうっかり牛乳をこぼしてしまった人がいました。すると近所の子が、ささっと雑巾をもってきてくれて、さっさかさあと拭いてくれたり、食器をよけてくれたり、ぬれそうな荷物をどかしてくれたり、とっても優しく親切に手伝ってくれる人がいます。
　そうかと思うと、その同じ出来事でも、自分の荷物までぬらされてしまったと怒って、「何だよ、ぼくのもぬれちゃったじゃないか。」と言ってぶってくる子もいます。うっかり

こぼしてしまって情けない気持ちになっているうえにこんな意地悪されたら悲しいですね。
　さあさあ、皆さんは、花咲き山の花を咲かせた女の子のように「他の誰かが喜ぶとわたしもうれしいな。」と思って人のために我慢のできる子なのでしょうか。
　それとも、「どうせ・・・。」「でも・・・。」「だって・・・。」と人のせいにして、ほかの人にやさしくできない子でしょうか。
　桃五の皆さん６８３人の花咲き山には、いったいいくつの、人のために流した涙の花が咲いているのでしょうね。

　さてさて、桃五の皆さんの花咲き山には、どんな花が咲いているかな・・・・。
「お話終わります。」
「・・・・・・・・・・・・・・・。」